【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和６年度学校評価 中間評価

様式１（小・中）

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	嬉野市立嬉野中学校

1　前年度 評価結果の概要	**・学習意欲・・・「ほめる」を意識して指導し、生徒の自己肯定感を高めることができた。授業では対話的な学びが定着しつつあり学力も向上している。しかし、学力が二極化傾向にあり、次年度は「学びあいができる生徒」を目指し、さらに学習意欲の向上を図りたい。 ・生活習慣・・・生活記録表を活用した個別の支援や「あいさつ」「掃除」の継続的な指導の結果、基本的な生活習慣が概ね定着したと言える。しかし、常にSNSやゲーム等の依存性に注意する必要があり、次年度は「自分を律することのできる生徒」を目指し、よりよい生活習慣の定着を図りたい。 ・コミュニケーション能力・・・人権教育やよりよい集団づくりを意識した取組を行い、生徒の人権意識を高めることができた。しかし、いじめや不登校等の課題は残っており、次年度は「仲間を大切にする生徒」を目指し、さらによりよい集団づくりに力を入れたい。**
2　学校教育目標	**夢に向かう颯爽とした生徒の育成　～「嬉中まなび力」「嬉中しぐさ力」「嬉中きずな力」～**
3　本年度の重点目標	**1　学習意欲・・・・・生徒の自己肯定感を高め、授業を大切にし、学び合うことができる生徒を育成する。 2　生活習慣・・・・・「あいさつ」「掃除」「時間」を意識して指導し、生徒の自立のために個に応じた学びの場を設定する。 3　コミュニケーション能力・・・・・生徒同士のつながりを強め、自他ともに大切にできる生徒を育成する。**

4　重点取組内容・成果指標　　**中間評価**　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○学び合うことができる授業の実践	○「学び合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した生徒80%以上	・「つかむ→やってみる→振り返る」を踏まえ、授業で適切に「学び合う活動」を設定する。	A	・「授業の学び合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」生徒91.8%、授業（単元）の中に適切に「学び合う活動」を設定している教員95.0%であった。 ・学力調査等から学習の定着状況が二極化していることが考えられる。個に応じた支援を行っていきたい。		・		・	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「自他の生命や人権を尊重している」と回答した生徒90%以上	・人権・同和教育、道徳等において人権の視点に立った授業や体験活動を行う。 ・集団づくりに関する研修を年間3回以上行う。	A	・「自他の生命や人権を尊重している」生徒99.3%であった。 ・集団づくりに関する研修を2回行った。今後も研修等を行い望ましい集団づくりを目指す。		・		・	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等（いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・いじめの対応についての研修・会議を年間に2回以上行う。 ・個別のケース会議を適切に行い、対応方針の決定・共通理解・共通実践を行う。	A	・「いじめの早期発見、早期対応に努めている」教員100%であった。 ・夏季休業中にいじめ対応研修を行った。 ・未然防止、早期発見のため定期教育相談を行っている。		・		・	
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒80%以上	・各種体験活動では、活躍の場と役割を設定し、達成のための指導を行う。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」生徒88.4%であった。 ・各種学校行事や学年行事、総合的な学習の時間において、実行委員会等を組織し、出番を保障することが自己肯定感を高めることにつながっている。		・		・	
	○不登校対応など、生徒の社会的な自立に向けた個に応じた取組の充実	○不登校対応等（不登校予防のための取組、ケース会議等）について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・不登校対応についての研修・会議を年間に2回以上行う。 ・ケース会議を適切に行い、個に応じた対応方針の決定・共通理解・共通実践を行う。	B	・「不登校対応等（不登校予防のための取組、ケース会議等）について組織的対応ができている」教員87.0%であった。 ・夏季休業中にスクールカウンセラーを講師に不登校対応研修を行った。 ・ケース会議を1回しか行うことができなかった。教育相談主任を中心により組織的な対応を進めていく必要がある。		・		・	
●健康・体つくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」生徒80%以上	・生徒会と連携し、給食時の放送等で給食への関心を高める。 ・学校栄養職員と連携し、必要な栄養について知識を深め、自己の健康管理を意識させる。	A	・「健康に良い食事をしている」生徒92.9%であった。 ・給食に用いられている食材や調理方法、料理に関する知識を、毎日給食時に放送で読み上げたり、配膳室前に掲示した。 ・学校栄養職員による給食指導と栄養バランスの良い食事についての講話を1・2年生で行った。		・		・	
	○望ましい生活習慣の形成	○「あいさつを進んでしている」生徒85%以上 ○「掃除を丁寧にしている」生徒85%以上 ○「時間を意識して生活を送っている」生徒85%以上	・「あいさつ」と「掃除」の目的や意味を伝え、継続的に指導を行う。 ・生活記録表を活用し、生活習慣の見直しにつなげる。	A	・「あいさつを進んでしている」生徒89.2%であった。 ・「掃除を丁寧にしている」生徒94.4%であった。 ・「時間を意識して生活を送っている」生徒92.9%であった。 ・「あいさつ」と「掃除」の目的や意味を伝え、継続的に指導を行った。今後も意識付けを行い、継続して指導を行いたい。 ・後半は、生活記録表を活用し、生活習慣の見直しにつなげる。		・		・	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日を毎週設定する。 ・部活動休養日を適切に設定する。 ・効果的・効率的な業務推進をする。	B	・「定時退勤日を実践している」教員45.8%であった。 ・「部活動休養日を適切に設定している」教員100%であった。 ・「業務を効率的に行うための工夫をしている」教員88.5%であった。 ・全職員の9月までの時間外勤務の平均時間数が、昨年度より7時間程度増加した。後半は、定時退勤日の推進を図っていく。		・		・	
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○「特別支援教育の理解を深め、個に応じた指導・支援に努力している」教師90%以上	・支援を要する全ての生徒に対して、個別の支援計画を作成し活用する。 ・UDを意識した教室環境や板書の仕方等、生徒の状況に配慮した指導を共通実践する。	A	・「特別支援教育の理解を深め、個に応じた指導・支援に努力している」教員100%であった。 ・個別の支援が必要な生徒について個別の支援計画を作成した。インクルーシブな配慮を行った授業の実践を行っている。		・		・	

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○キャリア教育の充実	○将来の夢や目標を持つことができる生徒の育成	○「卒業後の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上	・キャリア教育を推進し、自分の将来について考える機会をつくる。	B	・「卒業後の夢や目標を持っている」生徒72.4%であった。 ・「職業調べ」や「高校調べ」を充実させ、卒業後のことについて考えるうえで情報を得る機会を設定する。		・		・	

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・